

野菜の計画的な生産と消費拡大の推進について（案）

平成29年9月 日
野菜需給協議会

- 1 最近のにんじんの卸売価格は、秋にんじんの主産地である北海道において、7月以降天候に恵まれて生育が順調となったため、出荷数量が平年を上回る状況が続き、7月下旬以降の価格は、平均価格を大きく下回る状況が続いている。
- 2 産地側では、消費拡大に向けた取組みを行っているものの、出荷を継続すれば赤字になるという極めて厳しい状況におかれているため、加工品（ジュース、冷凍等）の生産拡大向けに出荷することにより、価格の回復を図りたいと考えている。
- 3 このような状況を踏まえ、生産者においては、にんじんの需要動向に即した計画的な生産を行うこと、野菜需給協議会の会員においては、
 - ① 消費者の野菜の摂取量が年々減少している中、厚生労働省が定める「健康日本21」〈第2次〉における目標（成人1日当たり350グラム）を目指して、野菜の一層の摂取を消費者に働きかけること
 - ② 会員それぞれの特色を活かし、野菜の需給動向等の周知や、新しいメニュー（蒸し野菜など）の工夫、優れた機能のPRなどにより野菜の消費拡大活動を更に推進することを、野菜需給協議会として呼びかけることとする。